

特33

553

女子作文教授術

近藤元晋著  
大田幸郎校

卷二

048335-001-3

特33-553

中等科用女子作文教授術

近藤 元晋/著

卷1, 2

M18

BEF-2391





近藤元粹 閱正  
近藤元晋 著  
太田 聿郎 校



# 中等女子作文教授術

大阪

敢進堂藏



333  
特553

中等女子作文教授術は

一 本書は小学中各科の文法を中める日用  
の教乃文例を志めしはけりともなありしるべ  
れまがび乃乃志るべとなまになんそをうく  
男文と名ちしること又をうくしるべと名  
初等科に用ゐる女子作文教授術は

一 本書は第四学期 中等科 第六級 より第六学期 初等科 第六級

一 級 第二学期 第三学期の学期とあてん

中等女子作文術 第一女子の部 第一〇一



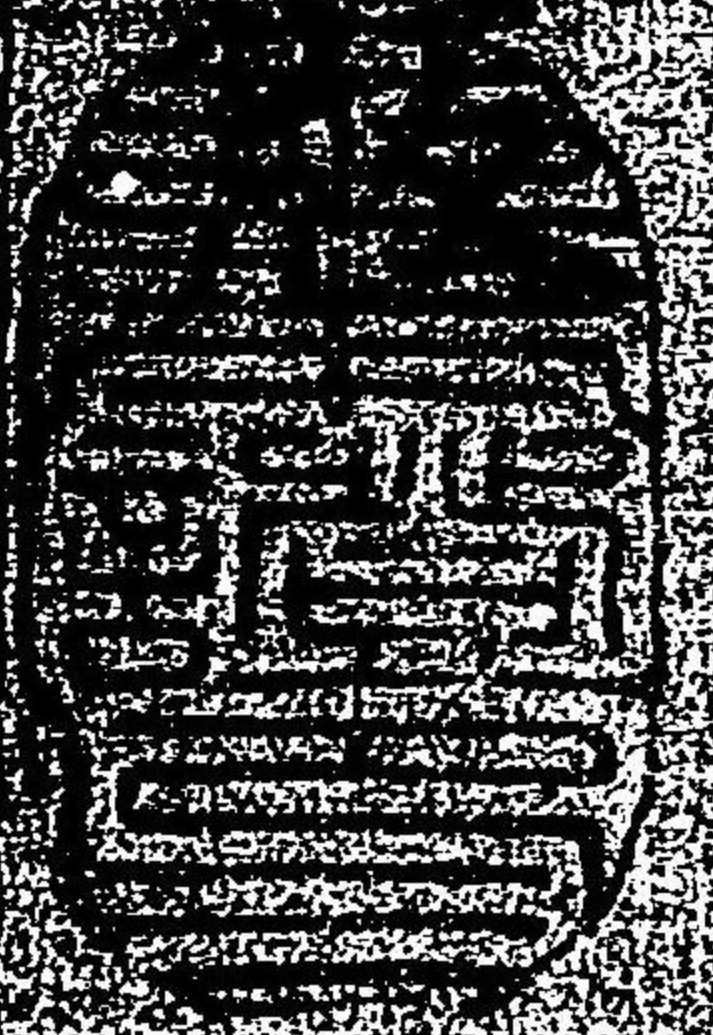
近藤元晋著  
大田幸郎校



# 中等女子作文教授術

大阪

教育書院



333  
特5

中等女子作文教授術は

一 けきを小學中各科の文法より中にある日用  
お教乃文術と志めしはけらよまあるよりん  
れまかび乃乃志よりんとなまになんそそ  
男文と名あしることとよまをくくしあが  
初等科に用ゐる女子作文教授術は

一 はきい第四学期 中級科  
一 はきい第六学期 高級科  
一 はきい第六学期 後期  
一 はきい第六学期 前期

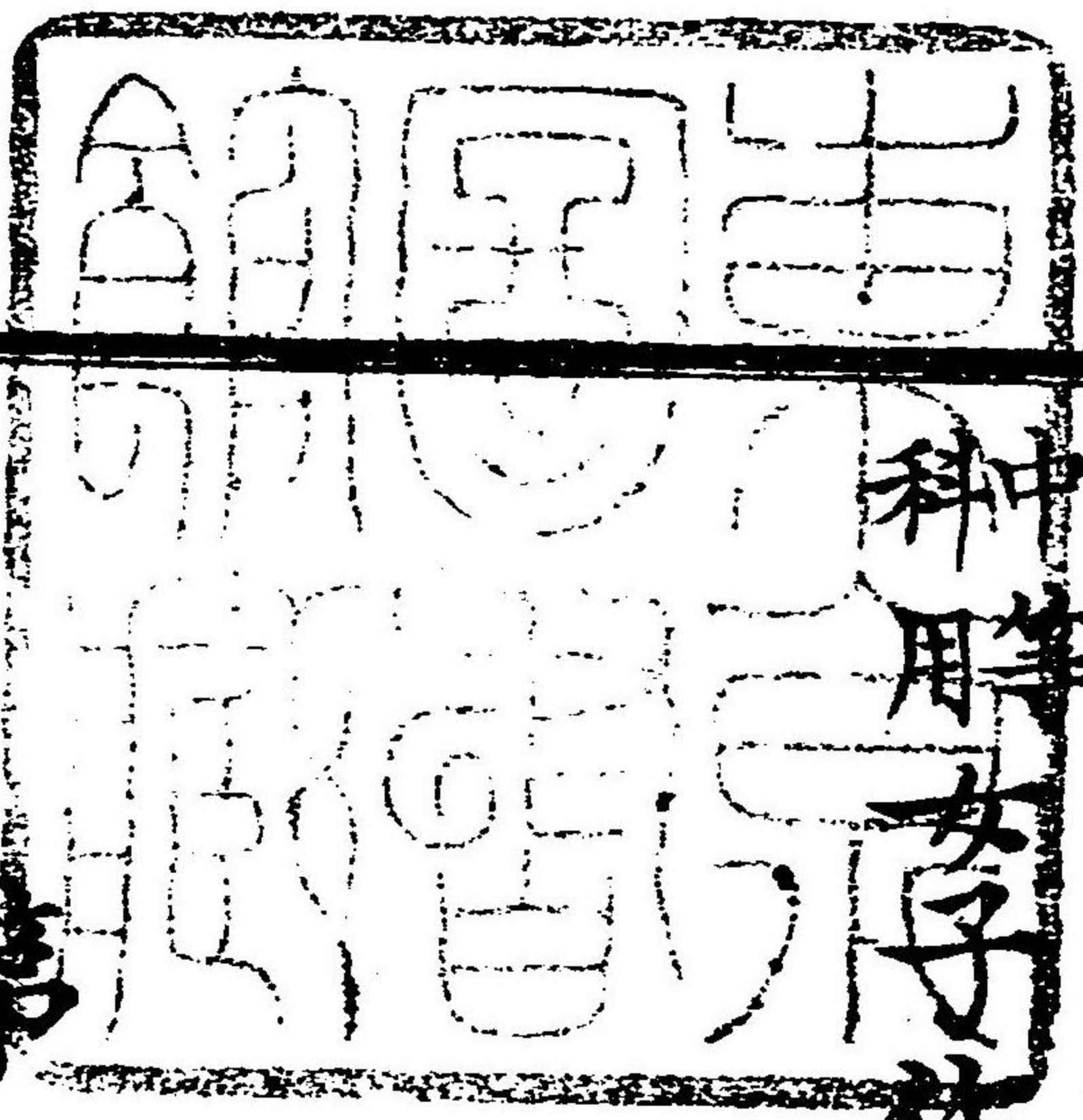
中等女子作文の教科書



とまればいづるにふまるとかたぬ

明治十七年正月

著者 〃



科用女子作文教授術卷一

第一章 日用書類

近藤元粹 閱正  
近藤元晋 著  
太田聿郎 校

一 姑なご白しろ ○ けこる ○ ああかかし ○  
出でままる ○ ぬぬく ○ ぬぬままま  
たたげげいいく ○ 踏け様さまる ○ ぬ  
葉は子こいいく ○ ぬぬまままま ○

一 傘かさととまままま上上  
ままののままままととぬぬまままま  
ままままままぬぬまままままままままま  
まままままままままままままままままま



出物魔い〜○出池をよ  
 お成○出の〜下され○出  
 かり中ふら○出の〜  
 上ひ○出返納中ふまぬら  
 せひ

②まのれ雨りて○出籠  
 後○出こするをさ〜ふら○  
 出来な下され○出入らせ  
 下され○何の風情もなく  
 ○傘出ら〜下され○入  
 子○落子○きのあいう

いさ言相借〜  
 出大切乃傘返りあり  
 使して出返りた〜

②同ねり下  
 出のたましく出物され  
 出何れは出物おはな〜  
 出さ〜下され〜  
 出今うを出り〜傘は持  
 下され〜

ぞや出さる下され

③一寸〜下され○一筆

○少〜出た〜  
 出社ひ○出標ありせ急〜  
 ○毒る〜出さ〜  
 ○出舟の毒○出勝子○出  
 教合い〜ふ〜や○お毒  
 あり○右出た〜  
 こと○言やけ使〜  
 下され〜

③大上と下と〜

慈と弟と染ら〜  
 少〜  
 あり〜  
 あり〜  
 あり〜  
 あり〜

④痛言々〜



④ 病中 ○ 正候の時 ○  
 出見廻し候 ○ 出深切の  
 禮 ○ 交々出つ子下され  
 ○ 厚う出礼中より ○ 深  
 くの礼中より ○ 言室の  
 出送り下され ○ きのよ々  
 しの候禮くろろ ○ 床  
 もるひい ○ 金候 ○ 去  
 く此病音 ○ 言の内 ○ 内祝  
 ○ 出巻礼 ○ 出非知  
 ⑤ よぶい ○ 煮あひ ○ っさ

より病中へ毎々出  
 深切に候為りされとに  
 いふく様様の出つてき  
 ぬうと存せりあつて  
 出のけりえけりあつて  
 たりと存せり出礼と  
 一寸出立せりせり  
 ⑤ 招かれ礼のあ中  
 出候いふく候様と

あくの出もてる ○ 大格  
 系 ○ さぞや出つりま ○  
 さぞく出達書 ○ 出系外あ  
 ぶつと存と存中ぬらせ  
 ⑥ 出礼出つて下され  
 しく ○ 出礼あふせられ  
 しく ○ 出礼まであつて  
 納り ○ 出納り出つて  
 中より

はらり候と存候人  
 力存ませ候付下され  
 候と存せり深く出礼  
 出候と存せり  
 ⑥ 出候の中  
 昨夜の出角中下は  
 出候と存せり候と



され○何の由もおもなく  
 ○出様ひやうぐい○出心易  
 まうまうせま礼のこ○出  
 礼のやうやうもなく○却  
 て出心配あづらう○あ  
 さいめんのおしりくは礼  
 ちより○出心易まで  
 七々々の結文うらうか  
 る出心易おしりくは愛○  
 ぬもてしりく○そ後の  
 出心易はあはれまひ○解

しりくはあはれまひ  
 一節はあはれまひ  
 せられはあはれまひ  
 はあはれまひはあはれまひ  
 とはあはれまひはあはれまひ  
 さし痛ひ  
 七 齋齋あはれまひ  
 相替はあはれまひ  
 遊はあはれまひ

愛を費ひして○もらひ  
 合せらまう○あはれまひ  
 ○あはれまひ○あはれまひ  
 下されらうぐいれく○  
 風味いふとあはれまひ  
 ○あはれまひ○あはれまひ  
 も  
 八 出到来の心○あはれまひ  
 送る下され○あはれまひ  
 拾う心○あはれまひ  
 汲山はあはれまひ○あはれまひ

あはれまひはあはれまひ  
 好むはあはれまひはあはれまひ  
 かあはれまひはあはれまひ  
 好む  
 八 同はあはれまひ  
 男今あはれまひはあはれまひ  
 女もあはれまひはあはれまひ  
 はあはれまひはあはれまひ



く出礼やふりり ○おね教  
の昔出礼やふりり ○水  
源切の夜 ○おまきなり  
○お母ふりり ○おね教  
お中下されり

丸まき 傳へりつづ ○今般  
○は夜 ○おね教 ○おね教  
り ○さぞおね教 ○おね教  
○おまきなり ○おね教  
○おまきなり ○おね教  
○おまきなり ○おね教  
○おまきなり ○おね教

○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教

○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教  
○おね教 ○おね教

父も何よりおね教より源  
と悦びおね教より源  
礼のそまきなり

丸 轉巻礼を傳へり男が  
貴いよみ中

おね教より源  
おね教より源  
おね教より源  
おね教より源  
おね教より源  
おね教より源

おね教より源  
おね教より源  
おね教より源  
おね教より源  
おね教より源  
おね教より源

おね教より源  
おね教より源  
おね教より源  
おね教より源  
おね教より源  
おね教より源



みよるへ色どり  
出見画として  
まで  
下され  
くう  
め

① 出見画として  
り  
あがめ  
け

の  
が  
余  
○  
海

② 出見画として  
婚姻  
○  
く

出見画として  
は  
は  
あ

① 出見画として  
出見画として  
は  
は

く  
を  
は  
は

② 出見画として  
は  
は  
は



ぬすぬらせら ○ 些少なぐ  
 ○ 草地まき ○ 紙まき ○  
 出祝儀とて ○ 出交納下  
 され ○ 出まなまき ○  
 ○ 出矢留下されらるる  
 けくなら

⑬ 出多治りおねーふり  
 ○ 恨のどく ○ 出中越の海  
 り ○ 婿姻とる結ぶら ○ ち  
 やくと出いそひよ後り ○  
 赤みく ○ 出がく ○ いと

ひ納り ○ 出うけまてあ  
 らく ○ 出うへーまて ○ あ  
 なり ○ 出くお首

⑭ 出々ふの出まき ○ 々ふの  
 出祝儀 ○ 出長音 ○ 出元音  
 ○ 出ーなり祝ひこめまの  
 らせら ○ 奏樂おらるるに  
 ○ 出花舎おらるるに ○ 出  
 物おらるるに ○ 出花い  
 ー友 ○ 出同道ーく

好ぶこれより年経き  
 把酒らんらん此志を  
 こそよひてしあつて  
 ちひ納下きんくみ可祝

⑬ 同題の中

出清おねーふまらせ  
 誰りけしん長絶つはき  
 ちあつては入は右の出祝ひ  
 ちして美お出おらるる

下され集々々お納り  
 ー出は出そのとめて  
 ち

⑭ 新結糸お後々中

今日良々も新武天宮の  
 出おらるる何新結お  
 ち出おの式は執りお  
 ーおらるる何お  
 ー友 ○ 出同道ーく







此強弱下されく○此弱  
こころり○まろく○  
あしくうし

⑤此弱くまがみりて  
り○激しきるまきり  
く○此音の毒より  
ども○字衣○給○除入○  
澄衣○袴○洋服○此る  
まは中○勝ちがまきり  
くども○此か合をわが

為何ははり為身はけり  
此入聞せ下されく

⑥知る人の仕立

ねむり下

一帯衣のりしは  
かたはあつた  
激しきるまきり  
羽織はききり仕立  
さりたはみよは

くくく○此の  
り○此の  
○何れ入用よつき○何れ  
はよ若来らや○此の  
されらるる

⑦此のやうな  
此の越のやうな  
未熟よりんども○  
知りしり○此の  
まははくは○此の

はりあつた  
かたはあつた  
は若くはみよは  
あつた

⑧此のやうな

此のやうな  
きいやうな  
のやうな  
可なり仕立



ろへども ○ 出問の合せ  
 まぐらも ○ 出用のり作  
 まるはまのほづら ○ い  
 そづらく書一居る ○ 勝子  
 あく ○ 出改りよる

不意に驚かすにまはるは  
 かなしやまはるあとの  
 なるうらん 居るは  
 は清きるやまはる

中等女子作文教授術卷一

附

○ 結尾類語

○ 先の用ひのり ○ 取敢ては是のみ ○ 出徳も  
 ○ 出徳もまて ○ 出らまて ○ まて ○ 昔もまて ○ 万  
 たいめんれ ○ 何れも後より  
 ○ 先の出れみまて ○ 右は能知  
 ○ 出らまて ○ 出らまて ○ 出らまて  
 ○ 出らまて ○ 出らまて ○ 出らまて  
 ○ 出らまて ○ 出らまて ○ 出らまて

○ 追啟類語







〇残のあつ〇あつ〇あつ  
 〇下され〇替時〇  
 〇下され〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇



出納任 ○ 出より入るこびり  
 自 ○ めでたき物ふら  
 露酒を樽 ○ をとりし  
 ○ 軽少の玉より つども  
 まづうらうら つども ○ 出  
 鏡を入 ○ 出より入るま  
 下されらうらうれ  
 ④ け夜ハ甘寝も少く 廣や  
 うにおぬ ○ ともかくと出い  
 をみし形 ○ 任の通り ○  
 引ら ○ 出に居ら ○ せ寝

今日の出納福にあはけ  
 とはあつめさく祝ひ  
 めらうらうら 困しまふ  
 出納任ハ 出より入る  
 まへに出納福にあはけ  
 ④ 同返り中  
 作下されし通の書情と  
 やうにおぬいし 今  
 先と引らうらうらま

の品 ○ 出敷と下され ○ 出  
 ぐらうと交納ゆみ ○ 出納  
 こかくと下され ○ 出  
 ○ ちとく出をさす出いら  
 せの程 ○ せままで ○ 出  
 けまぐ  
 ⑤ 関わらびら一バ ○ 出不  
 快乃心 ○ 出勝まぬされぬ  
 一 ○ 出空解 ○ 出病をれ  
 一 ○ 出運出存 ○ 出善  
 ○ 不暇の時飛 ○ ちとく出

出心よむさうし 勿年なる  
 うと下されし通の書情と  
 ひ納らうらうら 出納  
 出礼のまじし  
 ⑤ 病を見回のみ中  
 取をうらうら 出納  
 急病を今出休まされ  
 心にけし出心配のまじし  
 一 出納



快ふくくや○折角出たふ  
 にぬきさるぶくら○水保  
 考一とねら○取あんで出  
 見廻まで○水個まであ  
 く○ふすぬらせら○粗葉  
 考○をとりくくみ○そ  
 内集上出何しよぶくら一  
 ども

六 水見廻しあづらる○水  
 濃切の程あつらひなり  
 ○高知のふくおちし

頭痛○腹痛○後熱○折角  
 ○夜く水見廻下され○な  
 やみ居ら○お肉みみく心  
 配りくくく○お肉みみく  
 ちろくび居ら○商人も取  
 けけちろくび居ら○商人  
 よりも厚う出礼しよらや  
 うし解ら○お解○医何○  
 珍薬○出葉○思乃外志  
 しとえ○次第しよらり○  
 ちよつらき

ふくくや出うくくく  
 けお思ふられはあふ  
 さけくくくくくくく  
 ゆあ少くくくくくく  
 らあつら出何くくく  
 お骨

六 同世の中  
 思ふ事くくくくく  
 出何くくくくく

くけあつら出何くくく  
 り像く痛くくくく  
 い解程くくくくく  
 出何くくくくく  
 快くくくくくく  
 だく相思今何くく  
 出何くくくくく  
 戴くくくくく  
 ああ







○出他り ○出旅り ○遅く  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や

九 けり けり けり ○けり  
 けり けり けり ○けり  
 けり けり けり ○けり  
 けり けり けり ○けり  
 けり けり けり ○けり

みくはなるといふは  
 あかりとていふは  
 おまの世間よりいひて  
 百の中の家とていひて  
 お首

九 世間よりいひて  
 けり けり けり  
 いふとていふは  
 世のまゝとていひて

出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ ○や

十 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ

十 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ

十 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ  
 出逢ふ 出逢ふ 出逢ふ



うー下されぬ愛○何の由  
 愛おもなく○何の由せな  
 しくほりきまげ○此礼の  
 の種痛入は○今夜よ此こ  
 りまなく又くはのせの種  
 まちよひー○又く此種合  
 せの上由しく此こー下さ  
 れんくまらよひー○此此  
 ら○此書くこれ如くよ此  
 我

と付られりらくと此を傳  
 下さの器入る具今又此可  
 嘆よ此下され此種抄の  
 幸りもなきいよと暖言は  
 成はり何事かやうと此  
 葉用よはまらまらい白  
 かしこの世にまらら  
 まらぬまら

士物巻と報まら又中

士夜あ○今約○毎く此夜  
 下され○夜く此見画と預  
 己○留中此見画と一そ  
 ○いらく結搦の所○此意  
 と下され○一才あるぬ此  
 危介とおぬ○此教む此志  
 らせりよひー○此上考し  
 をよつこひー○此考○自  
 由るよ此るあつらひりて  
 ーよひー○あく見あつら  
 ー○此物経此礼とも此月

誰と此中恙なく昨晩  
 物巻つこくはまら此あ心  
 下されく留中此ら  
 くも此危介にあつら  
 美く此るこまらり  
 けお種乗のまらこまら  
 被地の名考より此此此  
 下されつこくはまらあ  
 の内あつらこくは此此



しううアアアアアア ○水報  
知くびくアアア

① 水の中を流るる水うへに  
の心 ○さぞ出つゝのきさき  
ふら ○水せめ流るるおちさき  
○水もアアア ○水作  
こされ ○水町水の中越の  
程入ら ○水礼とて何よ  
アアア ○水礼の  
アアア ○水同か

る水礼アアア ○水  
アアア ○先  
ハ水礼までアアア ○  
どまアアア ○  
アアア

② そののち  
水は水の中を流るるおち  
き ○水は水の中を流るる  
水もアアア ○  
れアアア ○水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる

水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる

③ 水の中

水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる

水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる

④ 水の中

水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる  
水は水の中を流るる



ちふりし。○出候うごく出  
 入らせ下されとく。○何れ  
 出候ひや上ぞらあ。○何  
 りりてなうもゆいごきひ  
 らつども。○出入来下され  
 とも。○音や出せあ下され  
 とも。○出いとあもらう  
 ④出入下され出紙乃や  
 うあつらひ。○出源切乃  
 程。○何れまのせ。○厚うま  
 しうらつども。○出礼あ

物と承る心易き了傳  
 せうし。上候ひあし  
 出候きらう乃出候  
 あうぬ内出く下さ  
 出候きらう乃出候  
 ④同程中  
 只今の出源切出指き下  
 されし。けき出程出  
 下さる却て失礼を

ぐらうてり上べく。○何  
 小出同くわつらふ  
 ④出候ひ。○思名の程  
 出候き。○余候あき用白  
 おら。○出候ひ出候け  
 出候き。○出候ひ出候け  
 うら。○出候ひ出候け  
 下されし。

出候き。上候ひ出候  
 今の出源切出指き下  
 下されし。けき出程出  
 ④同程中  
 只今の出源切出指き下  
 されし。けき出程出  
 下さる却て失礼を



上りてくらしや○心ちや水後  
 おろしや○大抵何の法  
 二世うへに捨けしや○  
 何故ともおぼえの用おそ  
 いらる○鬼角おせめ法  
 二おめ○者合せの傍○心  
 らん合せしや○けまゐ  
 ○げしゐ

夫に玉毒おしり○心  
 紙おえ○心心かきられ

○毎くお深切しお下さ  
 此の教後しそあ分月  
 末ははうんらまらう  
 来りし○ちちくお入ら  
 の程まちらり○信下さ  
 れら通り書え母人由急○  
 跡らあふ○心厚礼しよら  
 ○あたのめんろあしお礼  
 してべくる

① けしくおけんしお入

お通りいしかしと書し  
 らる自然おとれくあは  
 るきし級おゆしと書し  
 しと目おゆしと書し  
 書しお用し書しと書し  
 きりしおゆしと書し  
 けし

夫に玉毒の上  
 此意にのけしおあは

結構のお書あしおあみ下  
 さしあまき頂戴しし  
 信下しお通し信と書し  
 心講しと書しと書し  
 暇の初らとくお越下は書し  
 度中らと書しと書し

① 賀の程ひし人おあは  
 中

ぬしと書しと書し



らと此心 ○まほの心 ○まほの心  
くおあまのま ○古稀七十 ○墨  
馬一 ○ハそらハとせハ十  
水招待中上 ○家舎 ○午後  
まろ ○水お向此程 ○晴雨  
こかまろ ○水龍知中上  
まろ ○鏡解き重 ○水之  
合せの上 ○水不系まろ ○  
内程の通一程さーとまろ  
○どなる白まろ水こー下  
されまろ ○音水水通ま

老人誰中罪お悔りひる  
来る何自親親おまひあ  
しあの方へ水招き中上  
取の程通と聞きひあ  
おあまのままろまろまろ  
めま通水通まろまろ  
笑留下さるまろまろ  
おまろまろ水案内まろ  
うまろまろまろまろ

ちりり

○大出証居るあまろまろまろ  
まろ ○水程ひれ水案内水開き  
あまろ ○水まろまろまろ  
○まろまろ ○まろまろ  
まろ ○まろまろ  
まろ ○水案内水案内  
○まろまろ ○まろまろ  
まろ ○まろまろ  
まろ ○まろまろ

○大同おろ中

おまろまろおまろまろ  
おまろまろおまろまろ  
おまろまろおまろまろ  
おまろまろおまろまろ  
おまろまろおまろまろ  
おまろまろおまろまろ  
おまろまろおまろまろ  
おまろまろおまろまろ  
おまろまろおまろまろ  
おまろまろおまろまろ



けり。○は更納下されり  
り。うれ。な。り。○は  
き。ま。で。あ。ら。く。し。

し。ま。て。あ。ら。く。め。て  
る。の。祝

中等女子作文教授術卷二

附

○書簡書式

- 一 稱呼 表書、何某、何と書くこと
- 三 具名 自分の姓名と書くこと
- 五 時令 時作の挨拶と書くこと
- 七 欣喜 せよん、びん、や、り、の、あ、の、あ
- 九 瞻仰 ちやう、く、ん、の、あ、の、あ
- 十一 入事 ちやう、く、ん、の、あ、の、あ
- 十三 保重 ちやう、く、ん、の、あ、の、あ

- 二 傍書 服付のこととして、お、う、い、ろ、う、い、ろ、の、あ、の、あ
- 四 稱書 ね、の、あ、の、あ
- 六 起居 じやう、く、の、あ、の、あ
- 八 間潤 ちやう、く、の、あ、の、あ
- 十 自叙 ちやう、く、の、あ、の、あ
- 十二 祈亮 ちやう、く、の、あ、の、あ
- 十四 結尾 ちやう、く、の、あ、の、あ



①五 即日

又の終りて月日は

何れに似ぬ

すめり

何のたれ

一 等<sup>四</sup> 方<sup>四</sup> 日<sup>四</sup> 時<sup>五</sup> 分<sup>五</sup> 指<sup>五</sup> 定<sup>五</sup> 法<sup>五</sup> づ<sup>五</sup> け<sup>五</sup> じ<sup>五</sup> け<sup>五</sup> じ<sup>五</sup>  
 い<sup>六</sup> ち<sup>六</sup> 指<sup>六</sup> 定<sup>六</sup> 法<sup>六</sup> づ<sup>六</sup> け<sup>六</sup> じ<sup>六</sup> け<sup>六</sup> じ<sup>六</sup> け<sup>六</sup> じ<sup>六</sup>  
 め<sup>七</sup> せ<sup>七</sup> じ<sup>七</sup> け<sup>七</sup> じ<sup>七</sup> け<sup>七</sup> じ<sup>七</sup> け<sup>七</sup> じ<sup>七</sup> け<sup>七</sup> じ<sup>七</sup>  
 じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup>  
 せ<sup>九</sup> じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup> け<sup>九</sup> じ<sup>九</sup>

下<sup>十</sup> さい<sup>十</sup> の<sup>十</sup> じ<sup>十</sup> け<sup>十</sup> じ<sup>十</sup> け<sup>十</sup> じ<sup>十</sup> け<sup>十</sup> じ<sup>十</sup> け<sup>十</sup> じ<sup>十</sup> け<sup>十</sup> じ<sup>十</sup>  
 程<sup>十一</sup> 業<sup>十一</sup> ぎ<sup>十一</sup> 抄<sup>十一</sup> じ<sup>十一</sup> け<sup>十一</sup> じ<sup>十一</sup> け<sup>十一</sup> じ<sup>十一</sup> け<sup>十一</sup> じ<sup>十一</sup> け<sup>十一</sup> じ<sup>十一</sup>  
 ち<sup>十二</sup> け<sup>十二</sup> じ<sup>十二</sup> け<sup>十二</sup> じ<sup>十二</sup> け<sup>十二</sup> じ<sup>十二</sup> け<sup>十二</sup> じ<sup>十二</sup> け<sup>十二</sup> じ<sup>十二</sup> け<sup>十二</sup> じ<sup>十二</sup>  
 存<sup>十三</sup> じ<sup>十三</sup> け<sup>十三</sup> じ<sup>十三</sup> け<sup>十三</sup> じ<sup>十三</sup> け<sup>十三</sup> じ<sup>十三</sup> け<sup>十三</sup> じ<sup>十三</sup> け<sup>十三</sup> じ<sup>十三</sup> け<sup>十三</sup> じ<sup>十三</sup>  
 初<sup>十四</sup> じ<sup>十四</sup> け<sup>十四</sup> じ<sup>十四</sup> け<sup>十四</sup> じ<sup>十四</sup> け<sup>十四</sup> じ<sup>十四</sup> け<sup>十四</sup> じ<sup>十四</sup> け<sup>十四</sup> じ<sup>十四</sup> け<sup>十四</sup> じ<sup>十四</sup>

月 6

ま<sup>十五</sup> じ<sup>十五</sup> け<sup>十五</sup> じ<sup>十五</sup> け<sup>十五</sup> じ<sup>十五</sup> け<sup>十五</sup> じ<sup>十五</sup> け<sup>十五</sup> じ<sup>十五</sup> け<sup>十五</sup> じ<sup>十五</sup> け<sup>十五</sup> じ<sup>十五</sup>  
 は<sup>十六</sup> じ<sup>十六</sup> け<sup>十六</sup> じ<sup>十六</sup> け<sup>十六</sup> じ<sup>十六</sup> け<sup>十六</sup> じ<sup>十六</sup> け<sup>十六</sup> じ<sup>十六</sup> け<sup>十六</sup> じ<sup>十六</sup> け<sup>十六</sup> じ<sup>十六</sup>



稱書類語

○おそれながら  
上輩ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
下輩ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
同輩ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ

○おそれながら  
返事ニ用ウ  
以下同ジ



の通り

○出消息 オテガミト云フ  
コト以下同ジ

○出まゝ ○出ぬ ○出せ

出ぬ

○詞ノ解

○當ハ本又中ノナリト云フ  
○出消息  
○出まゝ  
○出ぬ  
○出せ

中 等 女 子 用

明治十七年十月十日版權免許 同十八年三月書改題御届  
同十八年三月書製本改御届 同年四月刻成出版定價五十二

著者

愛媛縣古旗

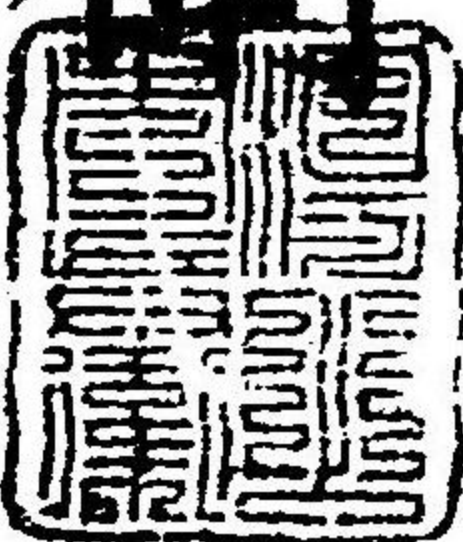
近藤元晋

同縣下伊豫國温泉郡小唐人町丁目廿九番地

大阪府平民

出版人

湯上市兵衛



同府下南區順慶町三丁目六拾番地

發兌所

敢進堂 龍池館





